

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年2月29日

事業所名: わくわくクラブ千里丘校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	・机上の取り組みは個別の部屋で行い、小集団での運動や療育は広場で行う様にしている。	
	2	職員の配置数は適切である	7	0	・法令に則った人員配置を満たしている。	・負担が偏らない様に、配置をその都度考える。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	・バリアフリー化については、手洗い場の高さなど改善すべき構造は、足台などを用いて子どもに合わせて対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	・日々職員が分担して掃除を行っている。	・今後も活動内容に合わせて活用していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	・各種会議対の中で、競技と情報共有を図っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・どんな取り組みをしてほしいかを伝えてもらい実施する。	・保護者のご意見を真摯に受け止め、その都度改善を行っていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	・毎年公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	・今後は第三者評価が行える様に検討していく。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	・法人内において研修を実施し、知識・技術・思考等、多角度から職員の資質向上を図っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	・各家庭ごとのアセスメント等に基づいた計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	・契約前に必ずご家庭の状況や児童の行動面での分析をする為のツールを提出いただいている。その後1年ごとに再提出を促し、児童の成長に合わせた分析の継続を心掛けている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	・児童の特性に応じて、適切に設定されている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	・事業所内において情報共有の上実践されている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	・事業所内において各種行事ごとに役割分担し、その都度企画立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	・事業所内において協議の上、立案している。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	・児童の特性に応じて検討している。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 3 年 2 月 29 日

事業所名: わくわくクラブ千里丘校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	・毎日定例で行っている。	・シフトの時間によっては、参加出来ないスタッフもいる為、共有ノートを作成し伝達漏れの無い様に努める。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	・終了後に毎日定例で行っている。休みのスタッフには日報を活用し、共有に努めている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・情報管理は素早く正確に行う事を徹底し、より良い支援に活かす様に努めている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・定期的実践している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	・事業所ごとに必要性に応じて適切な担当者を決め、参画している。基本は児発管が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	・保護者の要望に応じて幼稚園、保育園に足を運んでいる。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	1	・医療的ケアが必要な児童が在籍する場合は主治医等と連絡体制を整える。管理職から全スタッフへ情報が行き渡る仕組みが必要。 * 現状、医療的ケアが必要な児童の利用無し。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2	・医療的ケアが必要な児童が在籍する場合は主治医等と連絡体制を整える。管理職から全スタッフへ情報が行き渡る仕組みが必要。 * 現状、医療的ケアが必要な児童の利用無し。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	・保護者の要望に応じて幼稚園、保育園に足を運んでいる。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	・保護者の要望に応じて学校に足を運んでいる。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	・サービス担当者会議や事業所説明会等、巡回指導で助言を受けている。いただいた助言や意見は可能な限り取り入れ、実践をしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6	・利用児童の兄弟の来室は積極的に受け入れている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	0	・積極的に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	・毎日、保護者とのコミュニケーションを図りながら信頼関係の構築に努めている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	・トレーニングに及ばないが、保護者とのコミュニケーションの中で、適宜取り入れている。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	・契約時に説明を徹底している。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 3 年 2 月 29 日

事業所名: わくわくクラブ千里丘校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	・利用に際して支援計画を含め、保護者に同意を頂いている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	・定期的に情報交換する場を設け、悩み等の聞きとりケアに努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	・定期的に情報交換する場を設け、保護者同士の横のつながりを醸成出来る様に努めている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	・相談や申し入れには可及的速やかに対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	・ホームページで活動報告を毎週実施している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	・法人内で規定を設けており、規定に則って適切に管理している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	・特性に応じて絵カードやPECSを用いている。	・基本的事項と考え配慮しているが、考えが統一出来ていないスタッフが在る為、要研修。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	・十分に出来ているとは言えない。今後は地域に根差した事業所として発信力を高めていく。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	・定期的に避難訓練や研修を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	・定期的に避難訓練や研修を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	・契約時に書面にて確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	・医師の指示所は貰っていないが、問合せ、体験、イベント応募時に必ず確認し、スタッフ間で共有している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2	・作成及び共有は常時行っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	・法人内外の研修へ適切な人員が参加し、職員同士の情報共有に努めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	・現状該当児童がいない。必要に応じて保護者への説明を図っているが、十分とは言えない。今後は契約時においての説明を徹底していく。それと同時にスタッフにも同じように研修をしていく。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。